

3. 検査業務におけるAI活用の実際

2) 生成AIを用いた業務管理と品質向上

——安全運用ガイドラインに基づく「exaBase生成AI」・「ChatGPT Enterprise」の実際

鈴木 量 関西電力病院放射線部

当院では、「exaBase生成AI」（エクサウィザーズ社）および「ChatGPT Enterprise」（OpenAI社）を活用し、会議議事録の作成、定型メール文の作成、書類チェック、業務改善案の整理、教育資料作成など、管理業務を中心とした生成AI活用を進めている。生成AIの導入により、作業時間の短縮に加え、文書表現の標準化、確認すべき観点の明確化、教育資料作成の効率化など、業務品質の向上にも効果が認められた。

一方で、生成AIの活用には、情報管理、生成物の正確性確認、共有範囲の管理といった課題がある。そのため、組織として生成AI利用ガイドラインを整備し、承認された環境での利用、個人情報・機密情報の適正管理、人による最終確認を基本としている。

今後の目標としては、概念実証（proof of concept：PoC）を重ねながら、生成AIを業務フローへ組み込み、人工知能（AI）を前提とした提供価値・業務の再構築を進めている。さらに、AIエージェントと創る新たな働き方を視野に入れ、人とAIが協働することで、価値創出、生産性向上、安全・効率・高品質な業務の実現をめざす。

本稿では、exaBase生成AIとChatGPT Enterpriseの使用経験を基に、生成AIを用いた業務管理と品質向上の実践例を紹介する。

生成AI活用の背景

近年、生成AIは、文書作成、要約、

資料作成、情報整理など、さまざまな業務に活用されるようになってきている。医療現場においても、診療そのものを代替するものではなく、周辺業務を支援する道具として有用性が期待されている。当院では、exaBase生成AIおよびChatGPT Enterpriseを活用し、業務管理の効率化と品質向上に取り組んでいる。一方で、医療現場では患者情報や職員情報、未公開情報を扱う場面も多いため、安全な利用ルールを明確にした上で活用することが非常に重要である。

導入の目的

生成AI導入の目的は、単に作業時間を短縮することではない。会議議事録、定型メール、報告書、申請書類の確認、業務改善案の整理など、管理業務には一定の時間を要する作業が多く存在する。これらの業務を生成AIで支援することにより、職員は、確認、判断、改善といった、本来注力すべき業務に時間を割くことが可能となる。つまり、生成AIは、効率化のための道具であると同時に、業務品質を高めるための支援基盤である。

使用環境：exaBase生成AIとChatGPT Enterpriseの役割

当院では、個人用社給PCにあるexaBase生成AI（2024年下期より使用）およびChatGPT Enterprise（2025年

11月より使用）を用いて、生成AIの業務活用を進めている。OpenAI社は、ChatGPT Enterpriseのような組織向けサービスでは、ビジネスデータを既定ではモデル学習に使用しないこと、組織側がアクセスや機能を管理できることを説明している。ただし、だからといって無制限に情報を入力してよいわけではなく、組織内のガイドラインに従う必要がある。exaBase生成AIは、文章作成、要約、構成整理、アイデア創出などに有用であり、組織内で承認された生成AI基盤として、業務利用に適した環境を提供している。重要なのは、利便性だけでなく、組織として管理された環境で利用することである（図1）。個人契約の生成AIや無料の外部サービスでは、入力情報や履歴の管理が十分に確認できない場合があるため、筆者は、この2つの生成AIを業務に応じて使い分けをしており、業務利用では承認された環境を使用することを原則としている。

業務管理における活用例

実際の活用場面としては、会議議事録の作成、定型メール文の作成、各種申請書類の確認、業務改善案の整理などが挙げられる。例えば、会議メモを基に議事録の初稿を作成し、担当者が内容を確認・修正することで、作成時間の短縮が可能となる。また、定型的な案内文や依頼文については、目的、対象者、文体を指定することで、一定の品